

ネルソン級 NELSON CLASS

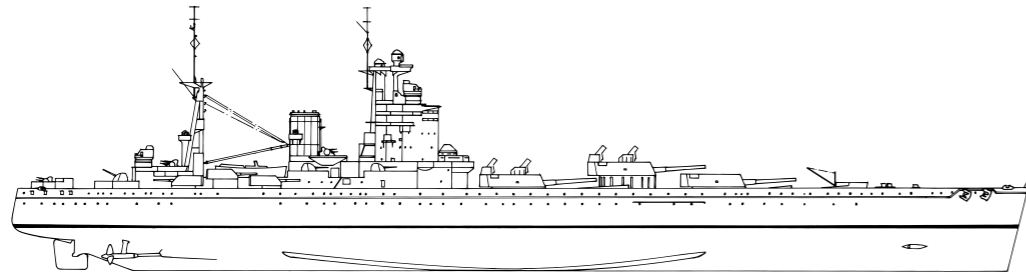
ワシントン条約で定められた 35,000 トンの排水量内で、最大の攻撃力と防御力を実現した戦艦で、ヴァイタル・パートを局限するため3連装砲塔を採用し、それを前部に集中した特異な艦型は、両大戦間の列国海軍で最も注目を集める存在だった。その反面、攻防力充実の代償になった低速力は無視できない欠点となり、作戦上大きな制約を受けたが、ビスマルク追撃戦の際、ロドネーは幸運にもその不利を克服して敵を捕捉し、止めを刺すのに重要な役割を果たした。両艦とも数次の損傷を被ったものの大戦後半は進攻作戦の支援砲撃に活躍し、ネルソンは戦争末期、長駆マレー半島まで作戦したが、船体の傷みの激しかったロドネーは係留状態で終戦を迎えている。

ネルソン Nelson 建造所アームストロング社、1927年8月竣工、大西洋船団護衛、地中海輸送掩護、北アフリカ、南イタリア、ノルマンディ上陸作戦、マレー半島進攻作戦に参加、1948年3月19日売却、解体。

ロドネー Rodney 建造所キャメル・レアード社、1927年11月竣工、ノルウェー防衛戦、大西洋船団護衛、ビスマルク追撃、地中海輸送援護、北アフリカ、南イタリア、ノルマンディ上陸作戦に参加、1948年3月19日売却、解体。

ネルソン NELSON

| | |
|-------|--|
| 基準排水量 | 33,950トン (1945年:37,000トン) |
| 満載排水量 | 不明 (1945年:44,054トン) |
| 全長 | 216.4m |
| 幅 | 32.3m |
| 吃水 | 9.1m (1945年:満載10.8m) |
| 主機/軸数 | ブラウン・カーチス式オール・ギヤード蒸気タービン2基/2軸 |
| 主缶 | アドミラルティ3胴式水管缶 (重油専焼) 8基 |
| 出力 | 45,000馬力 |
| 速力 | 23.0ノット |
| 燃料搭載量 | 重油3,755トン |
| 航続力 | 16ノットで7,000浬 |
| 兵装 | 40.6cm45口径Mk 13連装砲3基、15.2cm50口径Mk XXII連装砲6基、12cm40口径Mk VIII単装高角砲6基、2ポンド8連装ポンポン砲2基 (1945年:6基)、40mm機銃0 (1945年:4連装4基)、20mm機銃0 (1945年:単装61基)、12.7mm4連装機銃2基 (1945年:0)、62.2cm魚雷発射管 (水中) 2基 (1945年:0)、カタパルトおよび水偵なし、レーダー0 (1944年:273R型1基、281型2基、282型6基、283型4基、284型1基、285型2基) |
| 装甲 | 水線356mm、中甲板159mm、バーベット381mm、砲塔前楯406mm、司令塔343mm |
| 乗員 | 1,314名 (大戦中:1,640名) |



ネルソン Nelson (1941年)

1939年4月28日、ポーツマスを出港するネルソン。竣工後12年を経過しているが、ネーバル・ホリディ後間もない列強海軍の中では当時なお最新鋭の戦艦だった。前年、前橋楼頂部のHACS Mk 11基をMk III 2基に増強した直後で、測的範囲をできるだけ広く取るためタンデムに装備し、後方の装置を一段低くしている。



↑1938~39年、イギリス海峡を航走するネルソン以下の本国艦隊。背景のR級戦艦4隻を個々に識別するのは困難だが、遠方に行く後楯が単棒の2隻がロイヤル・サブリンとリヴェンジで、その背後にカウンティCounty級重巡の姿が見える。上空を飛行しているのは大戦前の主力水偵ブラックバーン・シャークである。

↓1940年末~41年7月、スカパ・フローに待機するネルソン。開戦後間もなく磁気機雷に触れ、1939年12月~40年6月、クライドで修理時、写真のように舷外電路方式の消磁コイルの装着、2、3番砲塔の天蓋にUP発射機各2基を搭載するなどの改正を行ない、やや時間を置いて前後楯に281型対空警戒レーダーを装備後の艦影である。





1 開戦前の状態。1937～38年、ポーツマス工場でHACSの増強と水平防御の強化を含む改修を実施後で、概ねこの姿で大戦に入った。2番砲塔の背後に見えるクレーンは、これに先立つ1935年、水偵を試験搭載した際に設置したもののだが、カタバルトは最後まで装備せず、この時期、ロトナーとの顕著な相違点になっていた。

↓57頁下写真と同時期、スカバ・フロアで撮影したシーン。先に触れた以外に2ポンド8連装ポンドン砲を後甲板に1基、15.2センチ副砲射撃管制装置の撤去跡に2基を増載、既設の2基と併せて近接対空火力を大幅に増強し、12センチ単装高角砲にシールトを装着しているのが認められる。大戦初期の本艦の詳細を示す貴重な映像である。



1942年5月7日撮影のネルソン。前年9月、マルタ輸送の掩護中、被雷損傷してロサイスに帰投。4月に修理を完了し艦隊復帰を前に砲積公試を兼ねて射撃訓練中の姿である。船体に濃淡の灰色で構成したコントラスト・タイプ迷彩を施し、艦首から防雷具展張用チェーンを垂下し、前航艦に続いて航走する姿はいかにも戦時下らしい。



上掲の写真と一連のシーン。58頁の映像と比較すると284型主砲射撃用、273R型水上警戒用を含む各種レーダーの装備、2、3番砲塔上のUP発射機を撤去し、2番砲塔上に2ポンド8連装ポンドン砲1基を装備、消磁コイルを艦内方式に変更するなどの改正が見られる。3番砲塔背景の艦は重巡ロンドンであろう。

